

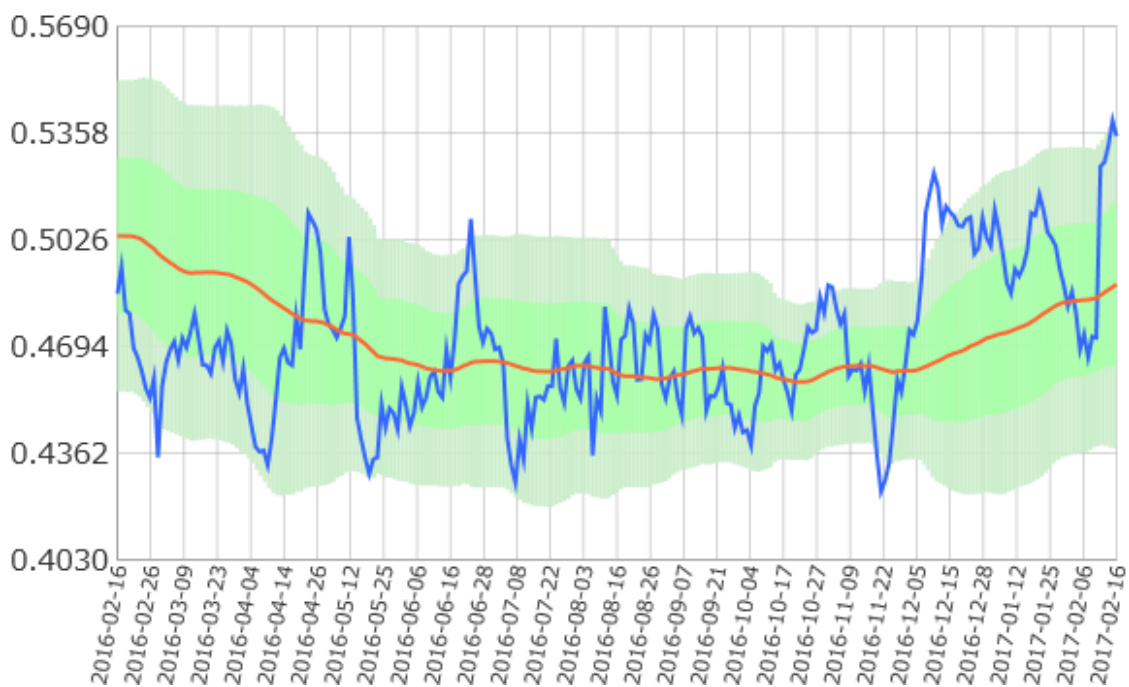
10 サヤ推移の法則性（平均回帰）

サヤの周期性・法則性の一つ目は「平均回帰」を狙ったサヤ取り投資です。

分かりやすくサヤトレのサヤチャートで解説します。

【平均回帰に理想的なサヤチャート】

【7202】いすゞ自動車 1560.5円 (100株単位) 【4911】資生堂 2918.0円 (100株単位)
相関係数:0.87 シグマ:1.81 サヤ比:0.53 移動平均乖離率:9.43% サヤ交差:35回
いすゞ自動車 200株、資生堂 100株 で投資金額をほぼ同額に出来ます。(誤差7%)



上記のサヤチャートをご覧いただくとサヤ（青い線）がボリンジャーバンド（緑）を大きく突き抜けてから平均値（赤い線）に戻り始めている事が確認出来ます。

このペアは、1年間の相関係数が高く過去のサヤチャートもボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ を起点として周期的に往來を繰り返しています。

このようなペアは、サヤが今ある位置から平均値方向（下）にサヤが戻る（回帰する）ことを予想して仕掛けを行います。

【サヤが下に推移すると予想】

売り銘柄 【7202】 いすゞ自動車（軸銘柄）

買い銘柄 【4911】 資生堂（脇銘柄）

上記のような形で2銘柄の投資金額を出来るだけ同額にして両建て保有します。

間違えやすい点としては同じにするのは「株数」ではありません。

「投資金額」です。

「株価」 × 「株数」 = 「投資金額」

株価は仕掛ける銘柄によって異なりますので株数を調整して投資金額を出来るだけ同じになるように調整してください。

サヤトレではサヤチャートの上部に同額となる株数を自動的に表示しています。

今回の例のペアの場合は、いすゞ自動車 200 株と資生堂 100 株で2銘柄の投資金額を同額に近づける事が出来ます。（ $\pm 10\%$ 以内を推奨）

今回のケースは、今あるサヤが今後、**下方向に推移すれば、利益です。**

この仕掛けが一般的な従来の『**平均回帰**』を狙ったサヤ取り投資です。

平均回帰を狙う場合サヤチャートの形は周期的に
ボリンジャーバンドを行ったり来たりを繰り返しているペアが理想的です。

平均回帰を狙う場合のポイントの一つに「**サヤの交差回数**」があります。

サヤ交差回数とは、サヤがサヤ移動平均線を何回交差したかを表します。

この交差回数が多いペアほどサヤが行ったり来たりを繰り返している訳です。

理想的形状のサヤチャートを探す際の参考になります。

また仕掛けるペアにおいて過去の株価の連動性があまりに似過ぎて
サヤ取りを仕掛けても取れるサヤの利幅が少額になるケースがあります。

予想通りにサヤが平均方向に回帰したとしても
あまりに少額過ぎる場合には、仕掛けを行うべきではありません。

その時に参考になるのがサヤチャートの
上部に表示されている「**移動平均乖離率**」です。

移動平均乖離率は、現在のサヤの位置からサヤの移動平均線までどれだけ離れているか離れ具合を確認する指標です。

移動平均線までペアを保有すると仮定した場合
移動平均乖離率は予定利益率となります。

移動平均乖離率 10%以上で設定した場合、現在のサヤ（青い線）から移動平均線（赤い線）までのパーセンテージが 10%以上離れている銘柄ペアを対象に検索します。

サヤの推移が年間を通してボリンジャーバンドを綺麗に往来し周期性があるペアを発見した場合には、平均回帰を狙った仕掛けに挑戦してみてください。

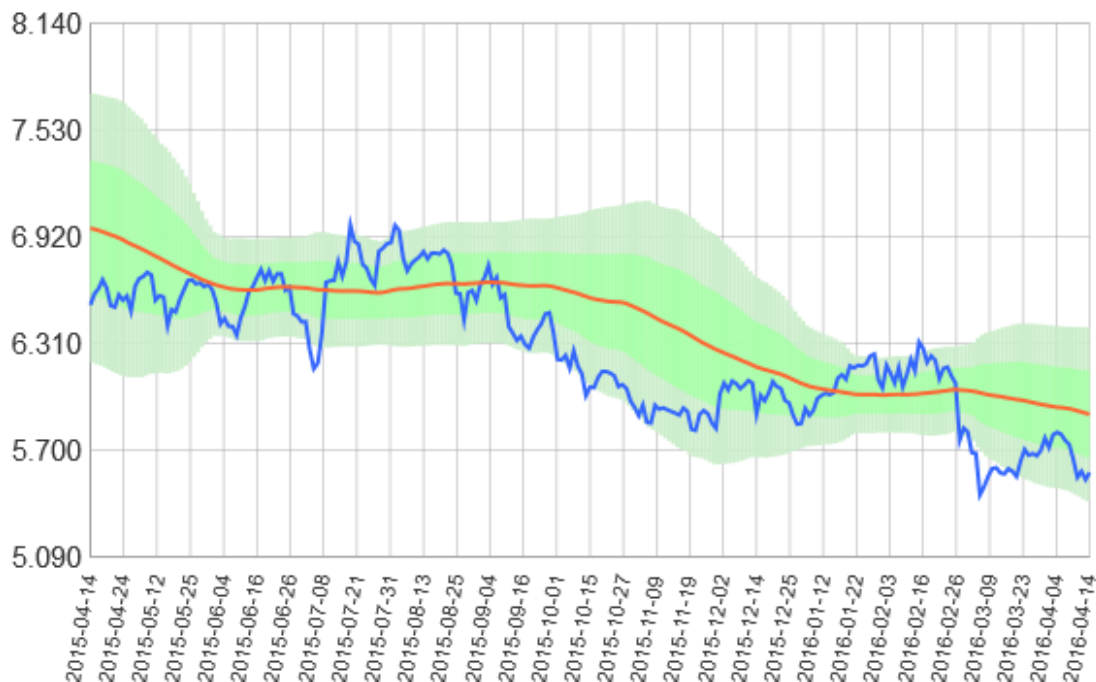
11 サヤ推移の法則性（平均かい離）

「平均回帰」を狙った仕掛けとは反対に平均方向から離れていく「平均かい離」を狙った仕掛けについて解説を行います。

実際の相場では、相関係数が高い2銘柄でもこのペアのように日々2銘柄のサヤが拡大していくケースもよくあります。

【平均かい離に理想的なサヤチャート】

【7203】トヨタ自 5806.0円 (100株単位) 【7201】日産自 1042.0円 (100株単位)
相関係数 0.87 シグマ -1.34 サヤ比 5.57 移動平均乖離率 -5.65% サヤ交差 10回
トヨタ自100株 日産自600株で投資金額をほぼ同額に出来ます。(誤差8%)



上記は、トヨタ自動車と日産自動車のサヤチャートを表示しています。

2 銘柄の 1 年間の相関係数はと高いですが一時的にサヤが平均方向に戻ってもすぐにまた離れてしまい長期的に継続して右肩下がりになっている状態です。

この継続した右肩下がりのサヤチャートは、トヨタと日産の 2 銘柄のサヤが日々離れている（かい離）している事を表しております。

このケースでは、**日産の株がトヨタよりも騰落率が勝っていることを表します。**

株式市場全体の相場変動は関係ありません。

トヨタも日産も株価が 2 銘柄とも下落している可能性は十分あります。

【例】

トヨタが **2%**上昇している日、日産は **3%**上昇

トヨタが **2%**下落している日、日産は **1%**下落

このように 2 銘柄に明らかなサヤのトレンド（方向性）が継続して発生している場合には、平均回帰の仕掛けを狙うよりもこのトレンドの方向に乗りながらサヤが離れていく（かい離）方向に仕掛ける戦略を取ることも可能です。

平均方向からかい離していく『平均かい離』は『平均回帰』と仕掛ける方向が反対になります。

【サヤが下に推移すると予想＝平均かい離】

売り銘柄 【7201】 トヨタ自動車（軸銘柄）

買い銘柄 【7203】 日産自動車（脇銘柄）

サヤの推移が継続して右肩上がり、もしくは右肩下がりのペアを発見した場合には、無理に「回帰」を狙わず「かい離」を狙った仕掛けがお勧めです。

もし仮に今回のペアで平均回帰を狙うとすれば

現在サヤ（青い線）は、平均値（赤い線）の下の位置にあります。

よってサヤが上方向に推移すると予想するので

売りと買いが逆転して下記のような仕掛けです。

【サヤが上に推移すると予想＝平均回帰】

買い銘柄 【7201】 トヨタ自動車（軸銘柄）

売り銘柄 【7203】 日産自動車（脇銘柄）

12 サヤ取りの仕掛け方向の判断

サヤ取り投資において「平均に回帰するペア」と「平均からかい離するペア」の2パターンの仕掛けについて解説しました。

2つの方向の特性について理解し、いざ仕掛けを行う際に売り銘柄と買い銘柄をどちらに仕掛ければよいか困惑してしまうケースがよくあります。

サヤトレを使って売りと買いの銘柄を間違わない判別方法としては今後サヤが推移する方向を単純に今後「上」か「下」かの推移方向を予想して銘柄の売り買いを判別する事をお勧めしています。

サヤトレのサヤチャート上では、必ず2銘柄の銘柄名が表示されます。

その2銘柄を「**軸銘柄**」と「**脇銘柄**」と考えてください。

その2銘柄のサヤチャートが今後、上に推移する予想するのか？

それとも下に推移すると予想するのか？

上記の推移方向が定まれば、軸銘柄を「買い」or「売り」を覚えるだけです。

軸銘柄が買いの場合は、両建てなので脇銘柄は自動的に売りと判断できます。

理論的には「平均回帰」・「平均かい離」などの考えになりますが、そう考えると難しくなるので 2 銘柄の「売り」と「買い」の判別については、単純にサヤが上か下かどちらに推移を予想するか考えると分かりやすいでしょう。

今後、サヤがどちらに行くか予想する

トヨタ自 × 日産自



サヤが上に推移と予想する場合
(左の銘柄を買い・右の銘柄売り)



■トヨタ**買い**
■日産**売り**

サヤが下に推移と予想する場合
(左の銘柄を売り・右の銘柄買い)



■トヨタ**売り**
■日産**買い**

平均回帰・平均かい離も関係ありません。
サヤの推移が上か下か仕掛ける方向で覚えましょう！

【今後サヤが上方向に推移すると予想した場合】

左側（軸）の銘柄を**買い**・右側（脇）の銘柄を**売り**

【今後サヤが下方向に推移すると予想した場合】

左側（軸）の銘柄を**売り**・右側（脇）の銘柄を**買い**

両建ての仕掛け保有の仕方は、困惑しがちですが「売り」と「買い」の仕掛け方向を間違ふことの無いようにお気を付けください。